

# 種便り

社会福祉法人 えのき会  
 京都市伏見区桃山町山下44の8  
 (075) 605 0303

## デイさくらの家

室内でも楽しんでいきます！

なかなか外に出る機会がもてず、ボランティアさんによるイベントもすべて延期になっている状況ですが、さくらの家では室内でも楽しもうとYOUTUBEで音楽を鳴らし、利用者の方にマイクを持ってもらいカラオケをしたり、小麦粉粘土で感触を楽しんだりと盛り上がっています。

また、ハンドメイド活動としてレジンを使ってキーホルダーやゴム・ピン止めを作りました。どの利用者さんとても素敵な作品が出来上がり、中にはでき上がったゴムをそのまま髪の毛につけて帰られる方もおられました。



## デイ種便りの家

## 節分



種便りの家では2月の恒例行事の節分を行いました。みんなで鬼の大きな的を作りカラーボールのまめでのあてを楽しみました。楽しみすぎて鬼の的の写真がありませんが、どんなものだったかはお想像にお任せします…



ここに的のような物がありますね！これが例の大きな鬼の的だったのでしょうか？実際に見て球を投げてみたかったです。

さくらの家でレジンを使ったハンドメイド活動に少し参加させてもらいました。初めてする作業で悪戦苦闘でした(・・;)慣れている職員さんの手助けもあり、いい作品を作る手伝いできました。レジンでの作品作りは家でもやってみたいです。



研修報告

①

2019年10月27日(日)

摂食研修会

時間：10：00～12：00  
 場所：さくらの家 会議室  
 講師：言語聴覚士 中谷 芽 氏  
 司会・進行：奥村主任  
 研修内容

実技をふまえた嚥下に関する基礎研修。基本的事項を中心に、利用者の姿勢、口腔への介助方法などを学ぶ。

食事の加工と形状研修

時間：10：00～12：00  
 場所：さくらの家 デイルーム  
 講師：京都総合福祉協会 栗田管理栄養士  
 司会進行：平井主任

研修内容：今後食事の加工を必要とされる方が増えてくる事が想定される中、その必要性についての基本的な知識を学ぶ機会とする。また利用者様個々の食事の加工方法の情報の共有を図り、より安全な摂食の追求及び、支援者として必要な知識、摂食への意識の向上を目的とする。



摂食研修職員アンケートより  
 ・車イスの固定ベルトをしつかりとめてあげることは、大切だが、私はしつかりとめると「痛いかな」「きついかな」と考えることがあったのですが、今回の研修を通して、「拘束」という文字にしばらくは、車イスの固定ベルトをしつかりしづらさを感じた。本人さんにとって、本来の車イスの形になることが分かったことで、固定ベルトをしつかり意識していいかなと思いました。

食事の加工と形状研修職員アンケートより  
 ・米飯と副菜をミキサーにかける方法。形態もまともりやすく味もそなわられていなくても試してみたい  
 ・講師の方もくり返しお話ししてくださいたいように、一つの正解がない以上、継続して、声をあげ合い、みんなで相談しあっていたいし、そのための仕組み（e x 給食委員会の立ち上げ）も含めてみんなで検討を重ねたい。



研修報告

②

2019年11月17日(日)

植松先生特別講演

時間：10：00～12：00  
 場所：さくらの家 会議室  
 講師：滋賀県障害児協会  
 常務理事・医師 植松 潤治 氏  
 テーマ：「重度心身障害者への支援について気を付けるべき点と医師との連携について支援職として何が必要か。」

カンファレンス/グループワーク

時間：13：00～13：50  
 場所：さくらの家 デイルーム  
 司会進行：田中徹  
 研修内容

午前の講演を受けて、印象に残ったことをグループ内で話し合う。今後、業務で何に気を付けていくべきかの気付きを得ることを目的とする。



植松先生特別講演職員アンケートより  
 ・どうしても、人対人の仕事なので、一時的感情で考えてしまいがちだが、専門的な部分から考えることで、なぜこの人は、今イライラしているのだろうか、しんどそうなのか、しつかり考える事が出来ると思った。なぜ？という疑問を持つことを大切にしたい。  
 ・利用者さんの障がい名だけでなく、どんなアプローチの仕方がその人に合っているのかという、情報データーができれば、支援者もよい、支援ができるのでは、と思う。

カンファレンス/グループワーク職員アンケートより  
 ・グループワークを通して、少しでも「あれ？」と思うたら、周囲に相談、共有してみることが大切だと感じた。(自分だけの「あれ？」で終わらせない)  
 ・自分のグループ内で出ている、色々な人と連携する仕事なんだという意識をもって、気付きを多く出来るように取り組み、それらをいろんな人に伝えて、よりよい支援ができるようにしていきたい。

WELCOME

